

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 岡山市立西小学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例: 小中高一貫)
所在地 〒700-0964 岡山市北区中仙道一丁目18-20
E-mail nishis@city-okayama.ed.jp
Website http://www.city-okayama.ed.jp/~nishis/
幼児児童生徒数 男子 630 名 女子 569 名 合計 1199 名
幼児・児童・生徒の年齢 6 歳～ 12 歳

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「ともに支え合い、心豊かにたくましく生きる児童を育成する」という学校目標の達成に向けて、夢や目標に向かって努力する子、ともに認め合い支え合いながら自他を大切にする子、自分で判断して行動する子の育成を目指している。ESDの実践を通して、地域に誇りをもち、地域にあるものや人を大切にしようという態度を養うことを目標とした。さらに、活動を通して、問題解決能力や、情報活用能力を育てていきたいと考え、次のように活動を工夫した。

① 多様な事象と関連性を学ぶことができるようにする工夫

どろんこ体験や田植え体験、案山子作り、稲刈り体験、ライスパーティーなどの食農体験活動だけでなく、地域の歴史や環境、地域の方の働きかけなどを調べる活動を取り入れた。

② 未来とのつながりを学ぶことができるようにするための工夫

昔の学区（場所）の様子と現在の学区（場所）の様子を比較する中で現在の課題を見つけることができるようにした。さらに、見つけた課題をもとに、あってほしい学区（場所）の未来像を想像し、絵や図で表現する活動を仕組んだ。

③ 課題を自らの生活や地域社会、国際社会との関連性においてとらえ、自分ごととするための工夫

社会科「米作り」の学習でとらえたことを基に、自分たちが田植えをした田んぼでは、地域の方がどのような苦労や工夫をして稲を育てているのかを調べ、地域の方の働きに目を向けることができるようにした。

④ 参加者の行動変化、変容を引き起こすような価値観への問いかけの工夫

社会科「米作り」の学習で米の作り方や農家の人の苦労や工夫などを勉強したところで、「自分たちの田んぼでも、地域の方が工夫をしてくれているのだろうか。」と尋ねることで、地域の方の働きかけを考え、地域の方への感謝の気持ちをもつことができるようにした。

地域の土地利用の変化や環境の問題に気がついたところで、「地域の方はどう思っているのか。」「地域の方は、何も取り組んでいないのか。」と問いかけることで、人とのつながりに目を向けることができるようにした。

地域の環境や祭りが人とつながっていることに気づいたところで、「自分たちにもできることはないか。」「それぞれの家がお金を出し合って、用水の掃除を清掃会社をお願いするのではだめなのか。」と尋ねることで、自分たちも地域の一員であることを自覚させるとともに、持続可能な方法で地域に参画しようとする態度をこれからも養っていきたい。



(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

当校のめざす子ども像の「やさしい子」の育成のために、子どもの思いを大切にしたい行事の工夫や体験・交流活動の充実を位置づけている。また、学ぶ力や生きる力を育てる場として、総合的な学習の時間の位置づけ、環境教育や地域文化、福祉などの領域に取り組んでいる。これまで行ってきた学習を基にしつつ、見直しを行い、教科横断的な学びを進めている。また、中学校区の学校間で、ESD の取り組みについて情報交換の場を設けている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

現在行われている取り組みを改善しながら継続している。学校評価の項目に盛り込み、学校自己評価の際に話し合った。地域行事を紹介したり、指導計画を共有したり、職員会議等で、自校のESDの取り組みや方向性等について、情報共有したりする場を設けている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

田んぼの学校の活動を通して、自ら進んで課題解決のためにインターネットや図書資料で調べようとする姿勢がみられたり、地域の良さや問題点を発見し、将来あるべき姿を考えたりすることができた。自分たちの住んでいる地域社会へ参画する資質や態度が少なからず身についた。学習活動終了後も興味・関心が持続するために、各学年の活動のつながりを意識して、継続していくことが大切だと感じた。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

活動の様子のパネルを公民館に展示した。また、活動の終盤には、ライスパーティーを開き、田んぼの学校にかかわってくださった地域の方を招待した。稲作について調べたことを発表したり、収穫したお米を炊いておにぎりを食べたり、家庭科で学習したおみそ汁を作って食べていただいたりして、感謝の気持ちを伝えた。その場で、まとめた課題や結果を見ていただくことで、学校・児童・地域・保護者のつながりがより深まった。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

ESDの取り組みについて、活動の様子を紹介したパネルを公民館で展示し、地域に発信した。JA営農センターの方々とは、田んぼの学校事業の年間計画を話し合ったり、田植え体験や稲刈り体験で交流したりすることができた。ライスパーティーの場では、発表に向けてまとめた課題や結果をJAの方々に見ていただいた。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

同じ中学校区の学校・園と交流する機会をもちたい。他校・園の取り組みについて考えたり、発表し合ったりすることで、交流相手のよさを認め合い、改善するきっかけになるのではないかと考える。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

体験を通して、児童は、課題を見つけ解決のために、自分から進んでインターネットや図書資料で積極的に調べようとする姿勢が見られるようになった。同時に地域のありがたさに気づくとともに、地域の方への感謝の気持ちをもつことができた。実際に足を運んで調べたり、地域の方にインタビューをしたりする活動が生まれた。自分たちの地域について調べる活動を通して、自分たちの住んでいる地域の良さや問題点を発見し、将来あるべき姿を考えることができた。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

田んぼの学校
4月 田んぼの観察，クリーン作戦をする。
5月 食農体験打ち合わせ会議を行う。
6月 用水路の水質検査をする。
田植えの手順確認および練習をする。
どろんこ体験，田植え体験をする。
7月 社会科「米作り」の学習をする。
田んぼの米作りの苦労や工夫について，地域の方の話を聞く。
9月 案山子作りをする。
地域のゲストティーチャーから話を聞く。
10月～ 課題を解決するための調査活動を行う。
12月 ライスパーティーをして，感謝の気持ちを伝える。
2月 調べて分かったことや考えたことをまとめる。
まとめたことを発信する。